

オオクワガタ *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse

【選定理由】

日本最大のクワガタムシ。各地で減少傾向が甚だしく、また大きな採集圧にさらされている。さらに、近年の飼育ブームにより同種の外国産を含む多くの飼育個体がペットショップ等にあふれており、放虫あるいは逸出個体によるいわゆる「遺伝子汚染」の恐れが高まっている。県内でも、各地で外国産と思われる個体や飼育交配したものと思われる個体が野外で見つかっている。

【形態】

体長 25～65mm。オスでは大あごを含めると 70mm を越える日本最大のクワガタムシ。黒色で、オスの大あごは強大で、よく発達したオスでは中央より前方に斜め上方に向く大きな内歯がある。メスおよび小型のオスでは上翅に点刻列のある縦条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸市定光寺（河路, 1986）、春日井市坂下町（河路, 1986）、小牧市小牧山（穂積, 1974）、稲沢市（穂積, 1965）、津島市（松永, 1979）、名古屋市守山区（長谷川, 2017）など尾張地方平野部を中心に分布する。蒲郡市など三河地方平野部からも未公表ながら生息情報があり、かつては県内平野部に広く分布していたと思われる。

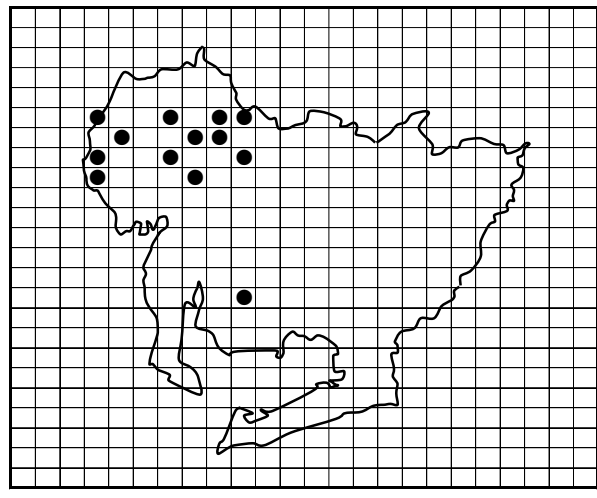
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、対馬。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国、タイ、インド。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

主に平野部の河畔林、寺社林、低山帯の雑木林などに生息する。成虫は夜行性で 6 月から 9 月に出現し、コナラ、アベマキ、ヤナギ類などの樹液に集まる。幼虫は、アベマキ、ポプラ、コナラ、エノキなど各種広葉樹の白色腐朽した朽ち木中を食べて育つ。

【現在の生息状況／減少の要因】

河川敷内の林を中心に、県内平野部に現在も僅かながら生息すると思われるが、個体密度は極めて低いと考えられる。減少の原因としては、平野部を中心に生息する種であるため、都市化の影響を強く受けたこと、また、戦後のエネルギー転換によって、燃料炭の生産が行われなくなったため、生息地である里山の雑木林が消失したことが考えられる。さらに、主にペット業者や愛好家の手による産卵木である朽ち木の破壊を含む過度な採集圧や、逸出した飼育個体と野生個体群との交雑による遺伝子汚染の危険性も高い。

【保全上の留意点】

河畔林を保全維持するとともに、ペット業者などによる過度の採集は慎むべきである。また在来個体群を守るため、飼育個体の放虫や逸出の防止に十分配慮する必要がある。

【引用文献】

- 穂積俊文, 1965. 船越俊平氏の標本箱より. ナビニュース, 55: 530.
- 穂積俊文, 1974. 東海甲虫誌(20). 佳香蝶, 26 (100): 105-116.
- 河路掛吾, 1986. オオクワガタの採集記録. 佳香蝶, 38 (148): 60.
- 松永晴彦, 1979. 愛知県津島市でオオクワガタを採集. 佳香蝶, 31 (119): 44.
- 長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収集された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

【関連文献】

- 佐藤正孝ほか, 1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫, (上): 200-477. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)